

1 題材名 「心の中の世界を表す(スクラッチ)」

2 題材について

(1) 題材観

中学2年生頃になると、客観的、知的なものを見方が発達し、写実的な表現を好むようになる。また、現実の世界を見たままに描きたいという欲求があるとともに、幻想の世界や空想の世界にひたる傾向も現れてくる。自分の持つイメージを無限に拡大していく作品づくりを行うことは、発達段階においても適切なことと考える。想像画は、絵画領域の中でも、特に指導が難しいと言われている。それは、想像し、表現しようという欲求があっても「思うように描けない」という理由から、意欲が失われていきやすいからである。従って、ものを正確に写したいという気持ちと、それを満足させる技術が伴わないというジレンマから解放してやるのが、より自由で意欲を持った作品づくりにつながる。

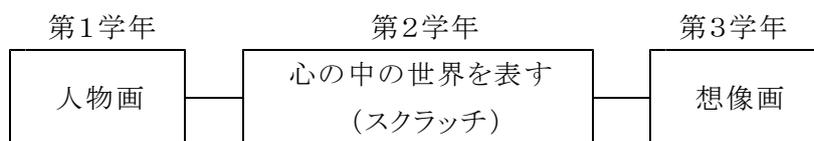
表現の醍醐味は想像性にある。自由に思いを巡らせ、現実にはありえないような新しい世界をつくり出すことは、誰にとっても楽しいことである。また、想像の世界は生徒個人そのものであり、他人とはまったく違ったものである。個人のイメージは、他人とは異なってもよいことを理解させ、自信を持って取り組ませたい。

スクラッチボードは、線の粗密によって白と黒を構成し、緻密な表現ができるところに特色がある。線やコンパス等で簡単に描け、線を描くコツをマスターすれば難しい材料ではない。白黒の明暗による表現は幻想的で不思議な雰囲気をつくり出すのに適している。今回はイメージを喚起させるために、自分の幻想世界を「詩や物語」に求めてもよいこととして、形象化を図らせたい。

学習指導要領解説・美術科編では、絵画や彫刻などの表現活動として様々な表現活動の基礎となるスケッチを重視し、「第2学年及び第3学年のア」では、「夢や想像や感情など心の世界をスケッチに表すこと」が明記されており、本題材では、この内容を受けて構成した。

(2) 指導内容の系統

本題材の系統に関わる教材の系統は次のとおりである。



3 生徒の実態について(35人)

(1) 学級集団の実態

全体的に素直な生徒が多く、指示されたことに対してはきちんと行おうとするが、自主的に考えて取り組もうという姿勢にやや欠ける傾向がある。このことは美術の作業においても、指示があるまでなかなか作業に移れなかったり、何をどのように描いたらよいかわからないと訴える生徒が増えていることにも結びついている。スクラッチという表現方法は、水彩画などに比べ最初は新鮮に受け入れられる。しかし、細密画に抵抗感のある生徒にとっては忍耐力を必要とする面もある。毎時間の学習課題を明確にし、個別指導の工夫などにより意欲が持続するように見通しを持たせ、計画的に作業を行わせたい。本時の授業を行うに当たって、生徒の実態を把握するために次のような実態調査を行った。

(2) 題材に関わる実態

・調査結果

調査人数:35人 調査実施日:4月22日

Q1	美術ではどの領域が好きですか？(複数回答可)	絵画6人	彫刻8人	デザイン8人	工芸21人	鑑賞12人
Q2	絵画の中では、どのような絵が好きですか?(複数回答可)	静物画16人	風景画15人	人物画5人	想像画10人	
Q3	作品の制作は粘り強く取り組みますか？	はい4人	普通29人	いいえ4人		
Q4	細かな作業は得意ですか？	はい7人	普通16人	いいえ12人		
Q5	木版画を作ったことはありますか？	はい18人	いいえ17人			

Q6 小学校の図画工作で想像画(物語の絵など)を描いたことがありますか?
はい21人 いいえ14人

・考察

例年と同じ傾向ではあるが、絵画、特に形の正確さを求められる人物画が苦手な生徒が多い。ニードルを使った線による表現が絵画全般に通じるものであることを踏まえて、粘り強く取り組めるよう毎時間の個々の課題をしっかりと持たせたい。また、生徒の多くは小学校で「物語の絵」を経験しており、今回の「詩や物語」からイメージしてもよいという作品作りには抵抗感は少ないと思われる。しかし、何も無いところから描写するのは非常に難しい作業であるため、描く物によっては資料を活用させて取り組ませたい。

4 単元の目標

- (1) イメージをもとに主題を決めて構想を練り、新しい世界をつくる喜びを味わうことができる。
(発想や構想の能力)
- (2) 作品に対する計画性・持続性を養うとともに、自己の活動を振り返り、制作カードに記入することができる。
(美術への関心・意欲・態度)
- (3) スクラッチボードの作品の持つ造形的な特質や表現効果を理解し、表現意図に基づいて制作できる。
(創造的な技能)
- (4) 作品鑑賞を通して作品の良さ美しさ、作者のねらいや表現上の工夫などを感じ取ることができる。
(鑑賞の能力)

5 指導計画(16時間扱い 本時は4時間目)

時間	学習内容	支援及び指導上の留意点	評価規準(観点)
0.5	鑑賞作品を鑑賞し、その見方や意味を考えさせる。	想像画では様々な発想方法があることに気付かせる。	先輩の作品からスクラッチの表現および明暗について理解できる。 (造形への関心・意欲・態度)
0.5	スクラッチボードの制作方法について理解させる。	スクラッチボードでは描いた部分が白くなることを理解させる。	点や線で描かれたスクラッチの表現に興味を持ち、自分から制作することができる。 (造形への関心・意欲・態度)
1	アイディアスケッチを練り、構想をまとめる。	想像画ではリアル感が無いと説得力が無くなることを理解させる。	心の中の世界を発想や構想を深めることができる。 (発想や構想の能力)
13 本時 (2/13)	スクラッチボードに転写し、針やコンパスで明暗の調子を見ながらスクラッチさせる。	削り方を工夫することで表現方法に変化を持たせる。	制作の方法を工夫し、スクラッチの特徴を生かすことができる。 (創造的な技能) 下絵の感じを生かして、効果的な線彫りができる。 (鑑賞の能力)
1	自己の作品の反省と相互鑑賞をする。	良い点についてのみ発表させる。	友達の作品に良さや、美しさを見だし、批評できる。 (鑑賞の能力)

